

『 寒 冷 便 り 』

後志教育研修センター

所長 長谷川 誠



高橋Dr.の人柄に触れた一日でした。昨年度からコロナ禍の影響で延期したり、中止したりして、いつかいつかと心待ちにしていた方々には大変ご迷惑をおかけしました。また、明日から学校閉庁になるという年末に開催したこともお詫び申し上げます。本当にやっとの思いで開催することができました。

その日の朝に苫小牧を出発したDr.は予定通り、文化福祉センターに到着しました。大ホールで講演の準備を済ませた後は、「昼食は軽く済ませてきました」と、控え室で最後の原稿見直しに集中しておられました。この日の倶知安町は連日の降雪で、かなり道脇の雪山も高く積もっていましたが、冒頭には「雪を見ると元気が出る!」と、流石は雪国で育った方らしい第一声でした。

Dr.は90分の講演の中で、幾度となく、「思考停止の世の中で…どんどん増える発達障害、ストレス関連障害、認知症…3つ子の魂100までも、地域なくして国ならず!!」というメッセージを私たちに送っていました。私はこのお話の中で3つのことを強く感じました。一つ目は「パターン化した世の中で、思考停止する。その時に、脳は機能しなく、退化する」ということ、二つ目は、「発達障害等は病気ではない、現象である」ということ、三つ目は「子どもには寄り添うだけでなく、一緒につきあっていくことが大切」ということ、特に、二つ目はなるほどと共感しました。

参加者の声を見ますと、Dr.の話を実際に自分事のように捉え、学校現場として、教育の分野からできることは何だろうと、周囲を巻き込みながら考えていきたい、という声がたくさんあったことは、大変心強く思いました。驚いたことに、人数制限した参加者100人の中で、Dr.に何かの形でお世話になった方が5人もいたことです。5%という確率は凄い数字です。改めてDr.の偉大さを感じさせられました。

Dr.はデジタル化の波が押し寄せ、人工知能(AI)の進化が顕著になってきている近年の情報化社会に対して警鐘をならしているように思えました。そして、次代を担う子どもたちには、自ら学び自ら考えることに加え、他者と共生・協働し、知恵を持ち寄り、未来を切り拓く力を身につけることの大切さを説いています。

後日、Dr.から届いた年賀状には、「色々なことに感動しました。年はとりたくないけれど、病気にはなりたくないけれど、あちこちあちこち…ごまかしごまかし…なんとか頑張る…」と益々人間性がそのまま表れているお手紙でした。当センターの所員・職員もより一層「高橋義男ファン」となってしまいました。

現在、当センターの所員がまとめた講演記録をDr.に添削してもらっていますが、私達に伝えたいことがまだまだあるようです。了解ができましたら、センターのHPに載せますので、是非、一読して見てください。「渡る世間は嘘ばかり…Part1」ですので、「Part2」もあります。次年度は皆さんが普段悩んでいることをDr.にぶつけて、対話形式で進めていきたいと考えています。期日は令和4年8月2日(火)、会場はコロナの関係で倶知安町ホテル第一会館あるいは倶知安町文化福祉センター公民館大ホールとなります。

次に、年が明けて令和4年1月12日（水）には、調査研究事業報告会が会場を倶知安町文化福祉センター公民館中ホール（コロナ感染対策のため広い会場）に変更して開催しました。管内20市町村から、学校教職員や社会教育主事など57名の参加を得て、学習指導と社会教育に関する調査研究の中間発表を行いました。



この日も教育講演会に引き続き、後志教育局の川端局長、後志町村教育委員会協議会の十河会長、後志教育研修センター組合の村井教育長にお越し頂きました。川端局長が当センターの研究紀要を熟読されてご臨席されていたことには、感謝の言葉しかありませんでした。そのこともあり、また2年ぶりの開催ということもありまして、所員は大変はりきってこの報告会に臨んでいるように見えました。

参加者の声には、「管内にしっかりと成果を広め、定着させるためにも大切な報告会だと考えます」「たくさんの具体例、活動はどれも貴重なものなので、工夫されながら続けていかれること期待しております。発表はとても明瞭でわかりやすかったです」「コロナ禍ではありますが、所員の方々の熱意が伝わるのはやはり今回のような形式かと思いました」などと感想が出されていました。中には、コロナ禍の中で、「会合ではなくオンラインの実施」の意見も出されていきましたので、参考にさせていただきます。

私は、社会教育に関する調査研究の報告が非常に勉強になりました。子どもたちの健やかな成長を願うためには、学校教育と社会教育ががっちり手を組んで行かなければ成立しません。学校教職員として、そして地域の一員として社会教育に携わり、地域とともにリーダ育成に関わっていくことの必要性を強く感じました。参加者の多くが学校教職員でしたが、アンケートを見ると、社会教育の重要性を再認識した先生方がたくさんいたことがとても嬉しい発見でした。

当センターの調査研究の内容を小樽・後志の教職員が「なるほど」と納得し、各先生方が「この位なら自分でもできる、やってみよう」という気持ちになり、その後実際に使ってみて、その成果はどうであったのか検証され、そこで初めて当センターの調査研究の価値が生まれることとなります。学習指導も含めて、当センターの研究内容をわかりやすく管内に伝え、そして広めていく重要性を改めて認識したところです。

最後になりますが、新年度に向けた研修講座の準備が既に始まっています。学校の仕事で大変お忙しい中、講師を快く引き受けてくださいました先生方に本当に感謝申し上げます。当センターの受講者の95%以上が自分の意思での参加であります。令和3年度の講座受講者のアンケートを見ましても、先生方が自らの強い意思で研修を欲していることがわかります。そして、何とんでも研修講座の成功の鍵を握るのは、講師陣の講座に対する意欲と姿勢です。そのような意味から、新年度も大成功の予感がしております。

来月の1日と2日、その第一歩となります講師団会議を集合形式で開催します。オミクロン株の流行でまん延防止等重点措置が適用されて大変厳しい状況ですが、第4波・第5波のまん延防止等重点措置の中でコロナ対策を講じながら、集合形式で研修講座を開講しました。今回も何とか会合して、講師が互いに顔をつき合わせて協議し、受講者の心に届く研修内容を策定してもらいたいと考えます。どうか、ご理解の程、よろしくお願い致します。

(R4.1.27)